

生分解性プラスチック(せいぶんかいせいぷらすちっくす) | *

石油への依存度を低減し、入手可能な原料(とうもろこし等)を利用した環境負荷の少ない高分子材料をいう。これら高分子材料は放置しておくと比較的短期間で生物分解で消失するため、生分解性プラスチック、通称グリーンプラ、ともよばれる。

グリーンプラは大きく次の三種類に分類される。

- 1) 化学合成系(ポリ乳酸、ポリカプロラクトン、ポリブチレンサクシネート、ポリビニルアルコール)
- 2) 天然物系(修飾でんぷん、酢酸セルロース)
- 3) 微生物産生系(ポリヒドロキシブチレート)

今の所、これらの生分解性プラスチックは高価につくため、医療分野、包装分野、農業用マルチフィルムなど限られた分野のみに使用されているが、近い将来大量生産化で低価格化が実現すれば広い分野に普及していくことが予想される。

(古澤)